

教科	数学	科目	数学 I			単位数	3
学科	普通科	履修 学年	1	コース		必修・ 選択	必修
教科書	「改訂版 高等学校 数学 I」(数研出版)						
副教材等	「改訂版 教科書傍用 クリアー数学 I + A」(数研出版) 「改訂版 チャート式 解法と演習 数学 I + A」(数研出版)						

グラデュエーション ・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自己実現に向けて主体的に行動し、目標達成のために継続的に粘り強く取り組む能力と態度を育成する。 ②社会の一員として自己の責任を自覚し、他者と協働しながらより良い社会の実現を目指す態度を育成する。 ③人権、差別問題等を正しく理解し、適切な行動をとることができる能力と態度を育成する。
カリキュラム ・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①進路目標に応じた情報収集や分析等により、生徒に現状と課題を認識させ、進路実現への意欲を高め、自主的な学習活動を促す。 ②ICTの活用による学習効果を高める工夫や積極的な授業改善により、生徒が「より深く分かる」授業を展開する。 ③探究活動を通じて、広い視野で物事を捉え思考する能力、課題解決に主体的に取り組む姿勢を育成する。また、発表等の機会を活用し、企画力やプレゼンテーション能力等の育成を図る。 ④人権に関する課題や多様性について理解を深め、課題を自らの事として捉え、人権を尊重する行動がとれる資質を身に付ける。 ⑤生徒の人格を尊重した丁寧な指導や、内面に寄り添った支援等により、自律的な行動への変容を促し、自己指導力を向上させる。

学 習 目 標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数と式、図形と計量、二次関数およびデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
指導の重点	前半は、中学数学の復習も含めその内容をさらに発展させた分野を学習する。後半から、高校数学の新しい分野もおこみながら学習を進め、1年間で高校数学の基礎固めをする。指導項目の配列に留意しつつ指導する。 2、3学年につながる内容を多く含んでいるので、定着がはかれるように配慮する。

習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (30)	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	・ 整式の加法と減法 ・ 整式の乗法 ・ 因数分解 ・ 実数 ・ 根号を含む式の計算 ・ 不等式の性質 ・ 1次不等式 ・ 絶対値を含む関数と方程式、不等式	定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
		第2章 集合と命題	・ 集合 ・ 命題と条件 ・ 命題とその逆・対偶・裏 ・ 命題と証明	
		第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 課題学習	・ 関数とグラフ ・ 2次関数のグラフ ・ 2次関数の最大・最小 ・ 2次関数の決定 ・ 黄金比をもつ黄金長方形の性質	
	2 学期 (36)	第3節 2次方程式と2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 課題学習	・ 2次方程式 ・ 2次関数のグラフと軸の位置関係 ・ 2次不等式 ・ 三角比 ・ 三角比の相互関係 ・ 三角比の拡張 ・ 正弦定理 ・ 余弦定理 ・ 正弦定理と余弦定理の応用 ・ 三角比の面積 ・ 空間図形への応用 ・ 放物線の性質 ・ 立体とそれに内接する球	定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
	3 学期 (30)	第5章 データの分析	・ データの整理 ・ データの代表値 ・ データの散らばりと四分位数 ・ 分散と標準偏差 ・ 2つの変量の間の関係 ・ 仮説検定の考え方	定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
計 96 時間 (55 分授業)				

評価の観点 の趣旨と評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む 態度
	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	命題の条件や結論に着目し、数と式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりしている。 関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察している。 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決過程や結果を批判的に考察し判断したりしている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
	[評価方法] ・定期考査や小テストの成績 ・レポート等各種提出物 などを総合的に判断し、達成率が80%以上をA、79～50%をB、50%未満をCと評価する。	[評価方法] ・定期考査や小テストの成績 ・レポート等各種提出物 などを総合的に判断し、達成率が80%以上をA、79～50%をB、50%未満をCと評価する。	[評価方法] ・授業中の態度・発表 ・レポート等各種提出物 ・振り返りにおける主体性 などを総合的に判断し、達成率が80%以上をA、79～50%をB、50%未満をCと評価する。